

一 紫 会 だ よ り

題字 伊藤嘉夫先生

跡見校友会一紫会

〒112-8629
文京区大塚1-5-2
跡見学園
TEL&FAX 03-3941-8642
印刷 ハイパープレス
〒182-0017
東京都調布市深大寺元町3-6-8
☎ 042-486-9846 FAX486-9847

幹事長あいさつ

大塚 和子



一紫会会員の皆様ごきげんよう。厳しい残暑が続いているこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

三月十一日に発生致しました東日本大震災により、多くの尊い命が失われましたことに、深く哀悼の意を捧げますと共に、被災されました会員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。あの大震災の日から五ヶ月が経過致しました。雪の三月から猛暑の八月まで一五〇日余り、どのように過ごしていらしたのでしょうか。復興に向けて一歩ずつでも歩み出していらっしゃることを願っております。

この大震災に対しまして跡見校友会は泉会（高校卒業生の会）・桃李の会（短大卒業生の会）・一紫会の三会が共同で義援金二百万円を寄付させていただきました。会員の皆様からお預かりしている会費が、ささやかではございますが復興のお役に立てたものと思います。又、一紫会にお

きましては、今後五年間にわたり子供達への教育援助という形で、東北地方を支援していく方針を決定致しました。会員の方々への直接の援助とはなりません、広い意味での支援になるものと考えております。この震災を一つの教訓として忘れることなく、被災地の皆様の心に寄り添った活動を心掛けて参りますので、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

三月二十三日の卒業式も東日本大震災の影響で中止になりました。第四十三回卒業生九一六名の方々は記念品等を大学より郵送していただくこととなり、一紫会入会式で直接お目にかかることができず、残念なことではございました。

四月三日の入学式は大震災後の計画停電、それに伴う交通事情により文京キャンパスの跡見講堂で挙行されました。学部生一〇一〇名、編入生六名、大学院生十二名の学生が入学になり、今年度も跡見学園女子大学には若々しい力が漲っております。

さて、跡見学園女子大学は二〇一一年四月より登記上の位置が東京都文京区に変更になりました。二〇〇八年十月より文京キャンパスが開校致しましたが、今年度より名実共に東京の大学として出発致しました。二〇一〇年四月には文学部に現代文化表現学科、マネジメント学部が新設になり、二学部七学科体制がスタート致しました。この新体制は着実に成果を上げているようでございます。

支部活動は準備会から数えますと今年で十四年目となりました。今年のように大震災などが起こりますと、東北支部を心配されて多くの支部から安否のお問い合わせや「何かできることは？」などご連絡をいただくようになりまし

た。これは支部の間に強い絆が築かれてきた証のように思われます。支部がこのように成長し、支部相互の連携ができて参りましたのも会員の皆様の高い意識の賜と考えております。今後とも有意義な会に発展してまいりますよう、ご協力をお願い申し上げます。

一紫会は今年度も例年通りの活動を予定しております。このような時期に例年通りの企画？と思われる会員の方もいらっしゃると思存しますが、このような時だからこそ、いつものように普通に活動することが大事な事と考えま

した。一紫会の明るい話題・元気な姿をお伝えすることにより、今後の希望に繋がっているだけだと思います。五月二十一日(土)に開催されました幹事総会には、今年卒業なさいました新幹事の方も二名ご参加下さいました。次代を担って下さる若い世代の方々も多く参加下さるようになり、若い力を頼もしく感じております。今年度は役員改選の年でもございました。こちらにも新しく二名の方に加わっていただき、十四人の体制でより充実した活動を「心と心を新たにしているところ」でございます。

今年度は年が明けて間もなく、一月の末には九州新燃岳の噴火もございました。何日も続く噴火と、噴火による降灰・噴石等で、大きな被害を受けられた会員の方もかなりいらっしゃると思存します。最後になりましたが、新燃岳の噴火により被害を受けられた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

涼風の待たれる昨今ですが、思いはやはり被災地へと飛んで参ります。せめて気候だけでも心地よく過ごせるようにと念じて止みません。

会員の皆様、どうぞお健やかに過ごして下さいませう。

一紫会助成金による絵画の購入

—— 跡見学園女子大学花隈記念資料館 ——

跡見学園女子大学では、平成22(2010)年度、一紫会助成金(平成14年度贈呈)により、3点の作品を購入しました。当館ではこれら三作品を、お披露目として本年4月1日(金)から5月31日(火)まで第2展示室内で展示しました。これらの絵画を購入できましたことは、大学にとってとても光栄なことです。心より感謝申し上げます。(花隈記念資料館学芸員渡辺泉記)

作品① 「セードルの実のある風景」
(銅板・マニエル・ノワール)



花や実、豆(種)をテーブルの上に配しています。手前には虫眼鏡があり、私たちは絵の中に手を伸ばし、虫眼鏡を使いたくなるような気持ちにさせられます。絵を通じて、作者のマジック

クにかけられてしまうような幻想的な作品です。

作者：長谷川潔 1891-1980 版画家。
葵橋洋画研究所、本郷洋画研究所などで学び、1918(大正7)年渡仏。サロン・ドートンヌ版画部の会員となり、以後、フランスで制作を続ける。銅版画、特にマニエル・ノワール(メゾチント)の作品が知られている。(フランス文化勲章受章)

作品② 「鳩舎」(油彩)



須田国太郎の作品は、淡い色合いの中に、止まり木に止まり一斉に右を向いている鳩たちを描いています。その上にも、一列になり、鳩たちが並んでいます。ありふれた日常風景のよう

ですが、左下に咲く赤い花は印象深く、画面を特別なものにしています。

作者：須田国太郎 1891-1961 洋画家。
京都帝国大学、関西美術院でデッサンを学び、渡欧。帰国後は、独立美術協会会員となり、制作活動に励む。日本芸術院会員、現京都市立芸術大学教授となる。

作品③ 「かぼちゃMT」
(シルクスクリーン)



かぼちゃが一つ、大きく描かれています。網模様の中に水玉で表現されたかぼちゃはどこかだまし絵のようで、黄色と黒のコントラストがポップで新鮮です。草間彌生らしい作品です。

作者：草間彌生 1929年生まれ彫刻家、画家、作家。
1957(昭和32)年渡米、ニューヨークを拠点に、多くのハプニングと呼ばれる前衛的なパフォーマンスを行う。1993年、ヴェネツィア・ビエンナーレに参加したのをきっかけに、その精力的な制作活動が多く展覧会などで紹介されるようになった。水玉を使ったモチーフが殊に有名。

恩師からのメッセージ

教えながら学んだ日々



白田 紘 先生

わたしは跡見学園で、短大と女子大を合わせて、三十五年間教員として勤めた。代講や非常勤の期間を加えると四〇年以上にもなる。担当教科は外国語科目の「フランス語」をメインに、教養科目の「外国(ヨーロッパ)文学」の講義と、また文学部に移ってから、さまざまな演習科目も担当した。

これらの教科を受け持ちながら、それぞれにその時どき、教えながら学んできたというのが実感である。

わたしが専門に研究していたのは、フランス文学の主として十九世紀の小説、とくにスタンダールという作家であったが、当然、自分の専門をそのまま教養の授業で教えることには無理があった。まして「フランス語」の初級では、頭をまったく切り換える必要があった。したがって、専門科目を担当する先生方とちがひ、当初から研究と教育は別と考えて授業に臨んでいった。それでも、フランス語に

関して、学生から初歩の素朴な質問を受け、自分の知識の曖昧さに慌てて硯学の著書を広げることがあった。また講義科目では、研究対象とは隔たった領域を取りあげて、何

ら、若い日に願った僕の人生の場は跡見にあったといつてよい。

学窓を巣立ってゆかれた一紫会の人たちにしてあげられたこと、自分の研究のあれこれなど、我が意のままとはとてもゆかなかったが、自分の生きて来たそれなりに長い時代を振りかえると、こんなふうな道をたどった自分の人生は恵まれていたと思う。

昔の駕籠町、今の千石にあった高校では陸上部だった。放課後、数人の仲間と、不忍通りを大塚坂上まで駆け上がり、春日通りに出た。仲良・走っていた集団が、跡見の前あたりになると、みんないいところを見せようと競い合いになるのだった。そして、通りを左に折れて、共同印刷に向かう坂にさしかかると、なにごともしなかったかのようににまとまって帰るのである。思えば、そういう遠い昔から、跡見は近い、だが当時は遠いあこがれの存在であった。



神野藤昭夫 先生

人生の場であり 続ける跡見

将来、本を好きなように読んで、書きたい、喋りたい、生きてゆきたいと考えた。文学部への進学を決めた頃のことである。

そんなぼんやりした人生設計の実現が、跡見への赴任であった。昭和五十五年(一九八〇)のことである。それから三十一年の歳月が流れて、この春、選定年制度により、跡見を退職した。だから、

新学科開設記念 観光マネジメント学科開設記念 シンポジウムに参加して



二〇一〇年四月に誕生した文学部現代表現学科・マネジメント学部観光マネジメント学科の開設記念シンポジウムが、文京キャンパスのブルツサムホールで開催されました。十一月六日(土)には『表現することと発信する力を育てる女性へ』というテーマで高木美保氏・小松成美氏・青木涼子氏の三名をパネリストにお迎えし、山崎一衛理事長がコーディネーターをお務めになりました。それぞれの立場から表現力・表現のおもしろさ、むずかしさ等が語られましたが、表現する主体が人間である以上、表現者自身、あるいは



は人間の追求こそが大事なことでありと気付かされました。

次いで十二月十八日(土)には観光マネジメント学科開設記念シンポジウムが開催されました。『観光立国日本 跡見流こだわり旅を考える』というテーマのもと、観光庁長官溝畑宏氏の『観光を学ぶ学生に期待するもの』と題した基調講演でシンポジウムは始まり、学生も参加して行われたパネルディスカッション等、バラエティに富んだ内容で、学生の真摯に学ぶ姿実際に拝見できたことは、大変有意義な経験となりました。(大塚和子記)

書道展作品募集

跡見 廉書会 第5回 OG 作品展

会 期 平成23年9月30日(金)～11月5日(土)
主催・会場 跡見学園女子大学花咲記念資料館
第1展示室
開館時間 9:30～16:30
休 館 日 日曜・祝日 入館無料

跡見学園女子大学花咲記念資料館では、平成23年度企画展として、『跡見廉書会 第5回 OG 書道展』を開催する予定です。例年臨書のほか、篆刻、墨絵、工芸的な創作など多様な作品が集まり、卒業生たちの活動の一端を紹介しています。このたび、第5回目を開催するにあたり、卒業生の皆様にご参加いただきたく、ご案内いたします。

作品募集の概要

- 作品サイズ 全紙(136cm×70cm)以内。
軸装または額装したものを9月10日(土)までに花咲記念資料館宛に送付してください(宅配便等をご利用下さい)。
- 出品料 無料 但し、誠に勝手ながら、搬入・搬出時に要する送料だけはご負担願います。
- 出品を希望される方は葉書またはメールにてエントリーしてください。住所、氏名、電話番号、作品の予定サイズを明記の上、9月3日までに一報ください。

問合せ先 跡見学園女子大学花咲記念資料館
〒352-8501 埼玉県新座市中野 1-9-6
電話 048-478-0130 Fax 048-478-3554
E-mail: d-shiryo@atomi.ac.jp

著書紹介

▼飯島周先生

『オランダ絵図』
カレル・チャベック旅行記
コレクション(翻訳)
発行所 株式会社筑摩書房
10年9月10日 第1刷発行
定価 六四〇円＋税

▼白田紘先生

『スタンダールとは誰か』
発行所 株式会社新評論
11年3月31日初版第一刷
発行
定価 二四〇〇円＋税

▼梅宮創造先生

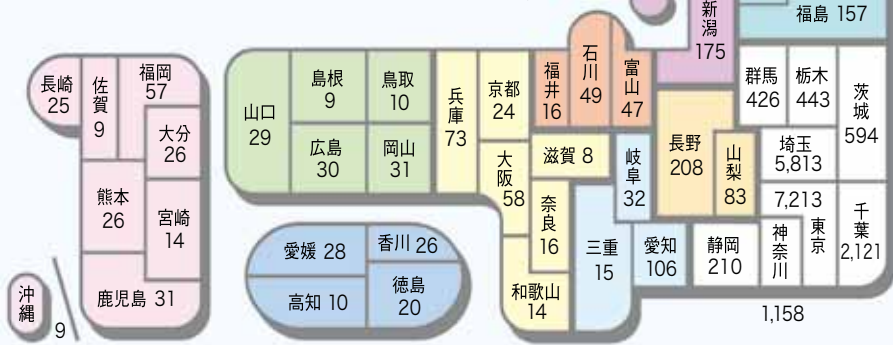
『ディケンズ・公開朗読台本』
(翻訳)
発行所 株式会社英光社
10年発行
定価 二六〇〇円＋税



支部会だより

会員総数 ■■名
内、住所不明他 ■■名

- 凡 例
- | | |
|-------|------|
| 北海道支部 | 中部支部 |
| 東北支部 | 関西支部 |
| 新潟支部 | 中国支部 |
| 甲信支部 | 四国支部 |
| 北陸支部 | 九州支部 |



関西支部会を終えて

新井 (水谷) 八智枝
(国文9回生B)

平成22年7月11日(日) 大阪ラマダホテルの「花外楼大淀別邸」にて開催いたしました。待ちに待った二年に一度の再会です。

今回で7回目となる支部会は、会員出席者18名に大学から山田学長、本部から大塚幹事長はじめ6名の幹事の方々をお迎えして、終始なごやかな雰囲気で行われました。

学長様から、現在の母校を取り巻く様々な状況をお話いただき、時代の変化に対応して変わっていく跡見の姿を嬉しく思いました。

その後は、おいしいお料理をいただきながら、皆様から自己紹介を兼ねた近況報告がなされ、大学や寮の思い出話やお孫さんの話など、大い



に盛上がり、あつという間の2時間でした。その後の本部主催の二次会にも全員の方が出席され、引き続き楽しい時間を過ごしました。

この度、広島県と香川県からの

出席があり、とてもうれしい再会でした。支部や回生をこえて、確実に跡見の輪が広がっています。又、四年間ではお会いすることのできなかった方達と、支部の同窓会でご縁が結ばれていっています。初めての方も不思議とうちとけてお話できる、それが跡見の大きな魅力です。

今年の夏は「酷暑」と呼ぶにふさわしい暑い夏でしたが甲信支部会が行われた九月十二日も甲府での最高気温が37度と残暑厳しい一日でした。長野と山梨で二年ごとに会場を移して開催しておりますので、山梨での開催は四年振り三回目となりました。

第6回 甲信支部会報告

中込 (桜井) 梨花
(国文15回生B)

今年度の夏は「酷暑」と呼ぶにふさわしい暑い夏でしたが甲信支部会が行われた九月十二日も甲府での最高気温が37度と残暑厳しい一日でした。

今年度の夏は「酷暑」と呼ぶにふさわしい暑い夏でしたが甲信支部会が行われた九月十二日も甲府での最高気温が37度と残暑厳しい一日でした。

今年度の夏は「酷暑」と呼ぶにふさわしい暑い夏でしたが甲信支部会が行われた九月十二日も甲府での最高気温が37度と残暑厳しい一日でした。

第4回

北海道支部会を終えて

武山 (蔵田) 純子
(英文6回生B)

平成22年10月17日、穏やかな秋の一日、札幌中島公園駅からすぐの札幌パークホテルに北海道在住の8名が参集しました。

山崎理事長、山田学長のご両名が共に就任後、初めてご出席なさって、本部から大塚様と若泉様、吉田様、藤田様には遠路ご参加頂き、感謝いたしております。

山崎理事長、山田学長から現代文・表現学科、観光マネジメント学科、生活環境マネジメント学科など、時代に即した学科が新設され、益々発

展する母校の現況を拝聴しました。司会は舟山様をお願いし、穏やかなひとときを過ごすことができました。



迎えしました。山崎理事長から跡見の改革とその成果のお話しを、山田学長からは大学の現況をお伺いし母校の発展を大変喜ばしく思いました。お洒落な中華懐石を頂きながらの会員の近況や学生時代の思い出話に、初めて出席の方もすぐに打ち解け会話が弾み時間は瞬く間に過ぎていきました。今回は支部会員松浦さんの友人お二人が、東京より参加して下さり一同大歓迎でした。学び舎を共にした同窓生、とても嬉しく思いました。同じ会場での一紫会ご招待のケーキとコーヒーを頂きながらの二次会も、話が尽きる事はありませんでした。師走も近づく外の空気は冷たいものの、帰路についた私達の胸は母校への思いに暖かく包まれていました。お暇な時HPでご覧頂ければ幸いです。

<http://www.matsuzo.com/atom1>

第3回 中国支部会報告

高田 (糸永) 京子
(英文6回生B)

本部のご提供で2次会も開かせて頂き、全員が出席し、うち解けて楽しいひとときを頂くことができました。

趣味の話題や、昔の跡見学園時代の話に花が咲き、話が尽きることはありませんでしたが、2年後の再会を約束し、散会致しました。

秋晴れの爽やかな平成22年11月28日、ホテルグランヴィア広島に於て第三回中国支部会を開催いたしました。山崎理事長、山田学長、本部から大塚幹事長はじめ4名の方々をお



第4回 四国支部会

諏訪 千秋
(国文6回生B)

一紫会の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。

梅雨の合間、六月五日全日空ホテルクレメント高松にて第四回四国支部会を開催いたしました。



東北大震災で延期も考えましたが本
部にご相談の上、予定通り挙行いたし
ました。

御出席頂きました山崎理事長、山田学
長からは大学の現状等をお話し下さい
ました。

この度の震災で東北出身・在住の現
役学生・卒業生が被災され、まだその
中には消息不明の方も多いとお聞きし
ております。心からお見舞い申し上げます。
そして一日も早い皆様全員ご無
事というご報告を願うばかりです。
今回は関西支部や東京と他の地区か

らもご参加頂きました。恒例の『一人一言タイム』では、三月以来の各々の心の中の変化や、家族・友人を思う言葉が多く聞かれ、被災地から離れたこの地でも感じるものが強かったことを知りました。次回から『一人二言三言タイム』と名前を変えても良い程、和やかなひとときを過ごしました。
大学は二ヶ所のキャンパスの在り方等、変革の期にあるとお聞きました。が、母校「跡見」が、これからも私達の心の支えになってくれるものと信じております。

支部会予告

第4回北陸支部会は、来る9月11日(日)、金沢市にて開催されます。

第4回九州支部会は、来る10月2日(日)、福岡市にて開催されます。

全国の支部の方も参加可能です。お問合せは一紫会事務局(6頁)まで。

会員だより

美術部OG会

皆様お元気ですらっしゃいますか？

美術部OG会のご報告をいたします。

まず、平成二十一年九月、久々三回目のOG会。これは、我が美術部の顧問「岡谷公二先生の傘寿を祝う会」と「和辻哲郎文学賞」受賞の祝賀会を兼ねての開催でした。一回生から十九回生まで、総勢五十五名の賑やかで、懐かしい会でした。卒業以来何年ぶり？の笑顔は、少しすると学生時代に引き戻してくれました。

岡谷先生は、風貌・話し方が全くお変わりなく！ 仏語や美術史の授業が思い出されます。今でもフットワーク軽く沖縄や韓国に調査に行かれるとか。もちろん韓国語も勉強されて。先

生の若さの源は、探究心と情熱と散歩とお酒！その時、今も講演会を開催されているとお聞きし、今年の三月六日に箱根の「ポーラ美術館」でアンリ・ルソーについての講演会には二十名が参加しました。会場は満席で、ルソーの絵の不思議、人となりを(岡谷先生はルソー研究の第一人者)学び、よりいっそう絵画鑑賞の奥深さを知りました。さらに、好奇心旺盛は大切な事！と。
今回の大震災で、悲しみややるせなさを痛感している今幸せな一時の思い出が頑張る糧となり、又皆様にお会いするまで健やかでいたい！と思うのです。(文責・美術部OG)



平成 22 年度収支決算報告

自 22 年 4 月 1 日
至 23 年 3 月 31 日

〈収入の部〉

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
会 費	21,420,000	21,540,000	120,000	1,077 名
事 業 収 入	100,000	81,580	△ 18,420	
受 取 利 息	20,000	3,443	△ 16,557	
前 年 度 繰 越 金	3,087,403	3,087,403	0	
合 計	24,627,403	24,712,426	85,023	

〈支出の部〉

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
事 務 費	通 信 費	2,000,000	1,634,160	△ 365,840
	通 信 費	2,000,000	2,025,208	25,208
	企 画 費	4,000,000	3,055,736	△ 944,264
	記 念 品 費	3,000,000	2,288,440	△ 711,560
	慶 弔 費	200,000	10,000	△ 190,000
	校 友 会 入 会 金	243,600	243,600	0
事務局費	人 件 費	2,500,000	1,382,000	△ 1,118,000
	交 通 費	1,000,000	582,000	△ 418,000
	会 議 費	700,000	405,517	△ 294,483
	交 際 費	500,000	269,460	△ 230,540
	備 品 費	300,000	0	△ 300,000
	消 耗 品 費	300,000	135,974	△ 164,026
	監 査 費	60,000	60,000	0
	雑 費	50,000	45,175	△ 4,825
奨 学 金	予 備 費	773,803	0	△ 773,803
	大 学 院 奨 学 金	1,000,000	752,000	△ 248,000
積 立 金	修 学 援 助 金	1,000,000	955,000	△ 45,000
	終 身 会 費 積 立 金	5,000,000	5,000,000	0
小 計		24,627,403	18,844,270	△ 5,783,133
本 年 度 剰 余 金			5,868,156	5,868,156
合 計		24,627,403	24,712,426	85,023

全会員数 26,184 名

終身会費預かり金

61,640,000

終身会費積立金残高

68,309,548

平成23 年度収支予算

自 23 年 4 月 1 日
至 24 年 3 月 31 日

〈収入の部〉

(単位：円)

科 目	予 算 額	備 考
会 費	20,860,000	1,043 名
事 業 収 入	100,000	
受 取 利 息	20,000	
前 年 度 繰 越 金	5,868,156	
合 計	26,848,156	

〈支出の部〉

(単位：円)

科 目	予 算 額	備 考
事 務 費	通 信 費	2,500,000
	通 信 費	2,500,000
	企 画 費	4,000,000
	記 念 品 費	3,500,000
	慶 弔 費	200,000
	校 友 会 入 会 金	274,800
事務局費	人 件 費	2,000,000
	交 通 費	1,000,000
	会 議 費	700,000
	交 際 費	500,000
	備 品 費	200,000
	消 耗 品 費	300,000
	監 査 費	60,000
	雑 費	50,000
奨 学 金	予 備 費	563,356
	大 学 院 奨 学 金	1,000,000
義 援 金	修 学 援 助 金	1,000,000
	東 日 本 大 震 災 災 害 寄 付 金	6,000,000
合 計	東 日 本 大 震 災 災 害 寄 付 金	500,000
	5 ケ 年 計 画 校 友 会 本 部 負 担 金	
合 計		26,848,156

昨年10月24日(日)、秋分のなか国立劇場にて観劇会が催され、お楽しみいただきました。昨年は幕末物が大流行りで、勝親子の情愛物と、最後の將軍慶喜の品格にひたるという人の心の機微にふれるお芝居でした。会員の

第15回 観劇会レポート 時代はやがて 幕末動乱へ



皆様も感激の面持ちで劇場をあとになされていました。

★**クラス幹事総会**
平成23年5月21日(土)、クラス幹事総会が茗荷谷茗溪会館で開催されました。平成22年度決算・平成23年度予算が承認されました。総会終了後の歓談の中で、卒業生一人ひとりがしっかりとした考え方をもちて人生を謳歌されている様子をうかがい、跡見花蹊先生の教えが生きていると強く感じました。

一紫会事務局より

曲亭馬琴晩年の長編小説『開巻驚奇侠客伝』を現代歌舞伎として尾上菊五郎監修の元に甦らせ、波瀾に満ちた壮大なスケールで描く復讐譚をお楽しみください。

観劇該当の方へは入金方法・詳細等をご案内いたします。

受付 初回お申し込みの方優先で先着受付。お申し込みいただいた方全員に結果をご連絡いたします。

一紫会主催 — 昼食付 —

第16回 歌舞伎観劇会のご案内

国立劇場 10月歌舞伎公演

通し狂言
かまくきょうきあだうちものがたり

開幕驚奇復讐譚

尾上菊五郎
尾上 松緑
尾上菊之助
中村 時蔵
ほか

平成23年10月16日(日)
昼の部 12時開演

三宅坂 国立劇場
限定 150名様

お申込方法
FAX・葉書にて観劇会参加希望、〒・住所、氏名、回生、学科、電話番号、同伴者名(続柄)をご記入の上、下記宛にお申し込み下さい。

〒112-8629 文京区大塚一・五・九
跡見学園 跡見校友会一紫会
FAX 03(3941)8642

● 受付 9月17日(土)
● 会費 席料+昼食 六千円
● 同伴(家族一名) 八千円

応募の心得

- キャンセルの方は必ずご連絡ください。
- ご入金確認後、**参加証**をお送りします。参加証のない方は、当日受付できません。
- 会員同志の場合は、代表者が全員のお名前その他を明記の上、お申し込み下さい。
- 同伴はご家族の方一名に限らせていただきます。
- 同伴の方も必ず受付へお越し下さい。



★**新役員紹介**

幹事長	大塚 和子	企画	吉田 真知子	情報処理	亀田 多香子	庶務	須永 マサ江
副幹事長	田子 郁子	企画	土田 りかこ	情報処理	羽吹 綾子	庶務	酒井 章子
会計	若泉 雪子	企画	藤田 理恵子	情報処理	須永 マサ江	庶務	藤澤 恵美
		企画	三原 幸恵	情報処理	須永 マサ江	庶務	須田 典子
		企画	丸子 純	情報処理	須永 マサ江	庶務	須田 典子
		企画	丸子 純	情報処理	須永 マサ江	庶務	須田 典子

文学部 人文学科
神田実春 小島 彩那
島藤奈々 八重樫綾花

★**退職された先生方**

文学部
白田 紘 先生
神野藤 昭夫 先生

★**第44回「紫祭」のご案内**
10月29日(土)、30日(日)に新座キャンパスにて「紫祭」が開催されます。一紫会では1号館1Fに卒業生の部屋を設け、会員の皆様のお越しをお待ちしています。

★**大学より**
大学「ボランティアサークルさくら」が日本赤十字社より長年の貢献により表彰されました。(二〇一〇年8月)

ご住所・お名前の変更はありませんか？

住所表示変更の場合もご連絡下さい。

1. 会員番号(宛名の名前の下に記入のNo.)
2. 卒業回生・学科名・クラス
(不明の場合は、卒業年度)
3. 新氏名(フリガナ)
4. 旧氏名(フリガナ)
5. 現住所(〒より)
6. 現住所の電話番号
7. 連絡先の住所(〒・〇〇 様方も)
8. 上記の電話番号

〈葉書・FAXの宛先〉

〒112-8629 文京区大塚1-5-9
跡見学園 跡見校友会一紫会
FAX: 03-3941-8642

一紫会へのご連絡は郵便、FAXでお願い致します。

訃報
安藤 良平 先生 享年■歳
二〇一一年三月ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

〈お問合せ先〉
吉田 真知子
(一紫会担当)
FAX 03-3920-5937

跡見学園開学百年を期に、卒業してなお美術工芸創作の道を歩む跡見同窓生が毎年創作展を開催しています。ぜひご高覧下さい。

会場 東京銀座画廊・会場A
中央区銀座3・7・18
銀座貿易ビル・名鉄メルサ
03-3564-1644

会期 平成23年11月18日(火)

午前11時～午後6時
(最終日午後5時迄)

第36回 花北会

へのご案内

跡見学園卒業生
美術工芸展

★**メールマガジン「あとみネット」をご利用になりませんか？** ご自分の展覧会情報など、お知らせしたいことがございましたら2週間以上の余裕をみてお申込み下さい。

跡見学園広報委員会 ☎ 03-3941-8161

跡見学園女子大学
OPEN CAMPUS 2011

文京キャンパス 8/27(土) 9/10(土) 11/26(土)
新座キャンパス 10/29(土)